

主な出展リスト

映画『白鳥の死』

- ◆ 参考: DVD / 映画『白鳥の死』日本語字幕付き (84分) / ジュネス企画 / 2018年 (MW) (NS)
- ◆ 参考: 書籍 / 『白鳥の死』 / ボール・モラン 著、岡田真吉訳 / コバルト社 / 昭和21 (1946) 年 (MW)
- ◆ 参考: チラシ / 『白鳥の死』 / 日本初公開時 / 1941年 (MW)

ジャンニヌ・シャラ

- ◆ プログラム / ダンスの日曜日 / シャンゼリゼ劇場 / 1942年6月13日 (PR-FR-007)
- ◆ プログラム / ダンス・リサイタル / サル・ブレイエル / 1945年6月7日 (PR-FR-014)
- ◆ プログラム / ダンス・リサイタル / サラ・ベルナル劇場 / 1945年11月23日 (PR-FR-015)
- ◆ スクラップブックより記事 / ジャンニヌ・シャラとローラン・ブティ / 『ボールとヴィルジニー』 / 衣裳: マリー・ローランサン / フランス / 1944年 (SB-20)
- ◆ 参考: プログラム / ジャンニヌ・シャラ・バレエ団 / シャンゼリゼ劇場 / 1953年 (MW)
- ◆ 参考: プログラム / ジャンニヌ・シャラ・バレエ団 / 日本 / 1959 年 5月 (MW)
- ◆ 参考: プログラム / バレエ・スベクトル: ジャンニヌ・シャラ / カジノ・ド・パリ / 1988年9月22～25日 (MW)
- ◆ 参考: 書籍 / 『ジャンニヌ・シャラ: ダンスのアンティゴヌ』 / ミシェル・アンペール 著 / Edition d'Art H. Piazza, Paris / 1970年 (MW)

イヴェット・ショヴィレ

- ◆ プログラム / 80歳記念ガラ / パリ・オペラ座 / 1998年2月10日 (PR-018)
- ◆ 参考: 同上 / 当日の配役表 (MW)
- ◆ 参考: プログラム / イヴェット・ショヴィレ生誕100年記念ガラ / パリ・オペラ座 / 2017年4月22日 (MW)
- ◆ 参考: 写真冊子 / イヴェット・ショヴィレ / 1963年頃 (MW)
- ◆ 参考: カタログ / 『フランス・ダンスの100 年: 映像で振り返るフランス・ダンス20世紀の光芒』 / ランドマークホール / APA (芸術振興協会) / 1998年 / 『80歳記念ガラ』関連インタビュー (NS)
- ◆ 参考: 書籍 / 『パリ・オペラ座へようこそ』 / 渡辺真弓 著 / 青林堂 / 2016年 (MW) (NS)

ミア・スラヴェンスカ

- ◆ プログラム / スラヴェンスカー・フランクリン・バレエ来日公演 / 1953年 (PR-310・311)
- ◆ プログラム / バレエ・リュス・ド・モンテカルロ / 1939年 (PRBROF-43-ws)
- ◆ プログラム / バレエ・リュス・ド・モンテカルロ / 1948～1949年 (PRBROF-59・86)

※ (MW) は、提供: 渡辺真弓。 (NS) は、提供: 関典子。

参考文献・資料

- ◆ インタビュー「あの人にこの質問を (第10回) 薄井憲二さん (バレエと映画)」 / インタビュー・構成: 松澤慶信 / 『舞踊学会ニュースレター』第11号 / 2016年11月30日 / 12-18頁 / <https://www.danceresearch.jp/newsletter/Newsletter11.pdf>
- ◆ 書籍 / 『イヴェット・ショヴィレ自伝』 / ジェラル・マノニと共著 / 1998年
- ◆ DVD / 『エトワールへの道』 / ドミニク・ウール・シュ監督 (81分) / 1988年
- ◆ DVD / 『バレエ・リュス: 踊る歓び、生きる歓び』 / ダニエル・ゲラー&デナ・ゴールドファイン監督 (118分) / 2005年
- ◆ 映画 / 『終わりのなきダンス (THE UNFINISHED DANCE)』 / ヘンリー・コスター監督 (101分) / 1947年
- ◆ 映画 / 『ジャンニヌ・シャラ: 本能のダンス (Janine Charat, L'instinct de la danse)』 / リュク・リオロン & ラシェル・セッド監督 (54分) / 2001年 / (※medici.tvで登録の上、視聴可。) <https://www.medici.tv/ja/movies/janine-charat-l-instinct-de-la-danse-luc-riolon-rachel-seddoh>
- ◆ 映画 / 『ミア・スラヴェンスカ: ダンサーの旅 (MIA-A DANCER'S JOURNEY)』 / マリア・ラマス & ケイト・ジョンソン監督 (65分) / 2013年 / (※スラヴェンスカの波乱の生涯を娘のラマスが辿るドキュメンタリー。YouTubeで視聴可。) https://youtu.be/gN_bDZINUJ4?si=sx4W7C6U4gTkHFA8



Kenji Usui Ballet Collection

薄井憲二 バレエ・コレクション 2026 企画展

映画『白鳥の死』 ～ 初の本格的バレエ映画 ～

2026/9/15 (Tue.) ～ 2026/10/12 (Mon.)

(2026/10/12は祝日開館日です。休館日はwebでご確認ください)

フランス映画『白鳥の死 (La Mort du Cygne)』(1937)は、恐らく史上初のバレエ映画で、1941年に日本で公開され、大評判になりました。舞台は、バレエの殿堂パリ・オペラ座。バレエ学校の生徒(ブティ＝ラ＝小ネズミ)と憧れのスターとの関わりを描いたものです。

主役のローズ・スーリに天才子役ジャンニヌ・シャラ、スーリが憧れるボーブレ嬢に名花イヴェット・ショヴィレ、そのライバル、カリヌに美貌のミア・スラヴェンスカと錚々たる顔ぶれが揃いました。

薄井憲二氏は、この映画に感動して何回もご覧になったそうです。今回は、映画を彩った3人の名花にスポットを当てて、薄井氏を偲びたいと思います。

Kenji Usui Ballet Collection

The Film “La Mort du Cygne (The Death of the Swan)” ～ The First Full-Scale Ballet Film ～

2026/9/15 (Tue.) ～ 2026/10/12 (Mon.)

(2026/10/12は祝日開館日です。休館日はwebでご確認ください)

◎ 企画・監修

関 典子 (せき・のりこ / 薄井憲二バレエ・コレクション・キュレーター)
Noriko Seki (Curator of Kenji Usui Ballet Collection)

舞踊家・振付家・舞踊研究家。幼少よりクラシックバレエを学び、18歳でコンテンポラリーダンスに転向。お茶の水女子大学大学院博士後期課程を経て、現在、神戸大学大学院人間発達環境学研究所准教授。日本ダンス評論賞・兵庫県芸術奨励賞・神戸市文化奨励賞・お茶の水女子大学小泉郁子賞など受賞。

◎ 企画・協力・テキスト

渡辺 真弓 (わたなべ・まゆみ)

Mayumi Watanabe

舞踊評論家、オン・ステージ新聞編集長、東京都立総合芸術高校特別専門講師。お茶の水女子大学及び同大学院で舞踊学を専攻。1991～2006年パリ在住。専門誌紙に寄稿するほか、『名作バレエ70鑑賞入門』(世界文化社2020年)、『日本のバレエ—三人のバヴロワ』(新国立劇場情報センター2013年)、『魅惑のバレエの世界—入門編』(青林堂2015年)など著書多数。

アシスタント: 若林絵美 (Emi Wakabayashi) 後藤俊星 (Shunsei Goto)

※ 兵庫県立芸術文化センター 薄井憲二 バレエ・コレクション 担当

〒663-8204 兵庫県西宮市高松町 2-22 tel : 0798-68-0223 (代表) fax : 0798-68-0212

※ Hyogo Performing Arts Center

映画『白鳥の死』

〔監督〕ジャン・ブノワ＝レヴィ
 〔原作〕ポール・モラン
 〔振付〕セルジュ・リファール(パリ・オペラ座メトロ・ド・バレエ、ブルミエ・ダンスール)
 〔出演〕ポープレ嬢:イヴェット・ショヴィレ(パリ・オペラ座ブルミエール・ダンスーズ)
 ナタリー・カリーヌ:ミア・スラヴェンスカ(ユーゴスラヴィア国立劇場エトワール)
 ローズ・スーリ: ジャニーヌ・シャラ

あらすじ

ローズ・スーリは、自分の「ブティック・メール(母代わり)」としてポープレ嬢を募り、外国から来たライバルのカリーヌを舞台の奈落へと転落させてしまう。骨折し、バレリーナとして再起不能となったカリーヌは、教師になって、自分の夢をスーリに託す。先生が優しいので、スーリは良心の呵責に苦しみ、オペラ座の地下へ……

映画に登場するバレエ・シーン

- ◆ グノー曲『ファウスト』より「ワルブルギスの夜」(振付:スターツ)
- ◆ ショパン曲「ダンス組曲」(振付:フリユースティン)
- ◆ ショパン曲「白鳥の死」(振付:リファール)



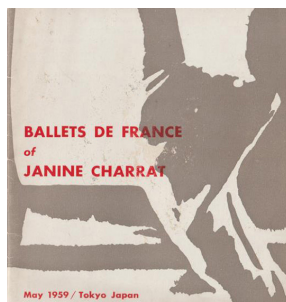
ジャニーヌ・シャラ

Janine Charrat
 (1924年7月24日～2017年8月29日)

12歳ながら、大人顔負けの演技で「天才少女と言われたシャラは、意外にもパリ・オペラ座バレエ学校出身ではない。グルノーブルに生まれ、10歳の頃からオリエンタル・ダンスを習う。バレエは、パリで、プレオブラジェンスカ、エゴロワ、ヴォリニンに師事。振付の才能にも恵まれ、1941～44年、ローラン・ブティとリサイタルを開く。1945年、ブティのシャンゼリゼ・バレエ団のために、『カルタ遊び』を振り付けた。ベルリンやオランダなどヨーロッパ各地で活動したのち、1951年、ジャニーヌ・シャラ・バレエ団を結成。1959年、バレエ団を率いて来日。日本に初めてベジャールの振付作品(『高電圧』)を紹介したほか、自作の『海藻』などを上演。1960年、モネ劇場から芸術監督のオファーを受けるが、断ったため、ベジャールが就任。1961年、『海藻』のTV収録中、スタジオで火傷を負う。その後、再起し、1962年からジュネーヴ大歌劇場の舞踊監督になる。精力的に振付活動を行うが、シャラの作品は再演の機会が極めて少なかったため、フランスでも忘れられた存在である。今回の企画で、シャラの存在がクローズアップされるのは喜ばしい。



『海藻』



1959年 来日公演プログラム

1953年 シャンゼリゼ劇場プログラム



イヴェット・ショヴィレ

Yvette Chauviré
 (1917年4月22日～2016年10月19日)



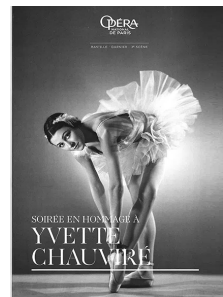
戦後のパリ・オペラ座に君臨した大エトワール。パリ・オペラ座バレエ学校に学び、1931年、13歳でオペラ座バレエに入団。1941年、リファール振付『イスターール』を踊ってエトワールに任命される。映画『白鳥の死』に出演したのは、エトワールになる前の20歳頃だったが、大輪の花のような美しさ。『ジゼル』を当たり役としたほか、『グラン・パ・クラシック』(1949)の初演者として名高い。現役引退後は、シルヴィ・ギエムやモニク・ルディエールなどオペラ座のエトワールたちを多数指導。その様子は、ドミニク・ドゥルーシュ監督『エトワールへの道』や『鳥のように…』などのドキュメンタリー映画に収められている。現役時代に、日本の舞台を踏むことがなかったのが惜しまれるが、1979年以来、京都バレエ専門学校名誉校長を務め、しばしば指導に訪れている。1998年2月10日に、80歳を祝うガラ公演が、オペラ座で盛大に催された。



1998年 パリ・オペラ座
 80歳記念ガラプログラム



『ジゼル』サイン入り



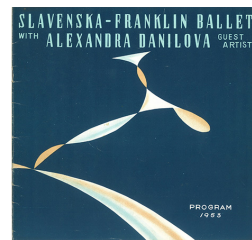
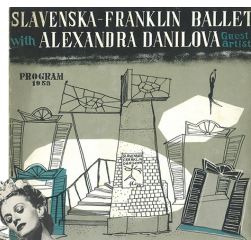
2017年 パリ・オペラ座
 生誕100年記念ガラプログラム



ミア・スラヴェンスカ

Mia Slavenska(本名:Corak)
 (1916年2月20日～2002年10月5日)

クロアチア(当時のユーゴスラビア)に生まれる。ザグレブの国立バレエ劇場付属バレエ学校で学び、1930年、ザグレブ国立歌劇場バレエ団にソリストとして入団。1934～35年ブリマ・バレリーナとして活躍。1936年、ベルリン・ダンス・オリンピックで金メダルを獲得。パリに移住して、1937年、映画『白鳥の死』に出演。パリで、エゴロワ、クシェンスカ、プレオブラジェンスカに師事。1938～42年、バレエ・リュス・ド・モンテカルロのプリンシパルとなり(1948～56年客演)、1944年以降、自身のグループを結成して活動。1952年、スラヴェンスカ・フランクリン・バレエを立ち上げ、海外で公演。1953年には、日本にも来演し、ベティス振付『欲望という名の電車』で主役のブランチを演じ、高い評価を得る。その後、世界各地のバレエ団に客演。ハリウッドに自身のスタジオを設立、1946～47年、後進の指導に当たったほか、大学などでも教鞭を取った。



1953年
 来日公演プログラム



『欲望という名の電車』